

花と緑の銀行だより

156号 2005.7



アシツキ / 高岡市中田

目次	・花と緑の提言	2	・花いっぱいのまちづくりをめざして	
	・砺波市における緑化推進について.....	3	富山市八尾町 宮ノ下村づくり会	8
	・花壇づくりのポイント	4	・アメリカシロヒトリの被害と防除	9
	・とやまの花壇苗・鉢花	5	・この人あり	10
	・富山県花総合センター(写真コーナー)		・草花の害虫とその防除法	10
	6 ~ 7	・情報コーナー	11

「人」と「花・緑」の関係と役割

富山県花卉球根農業協同組合

組合長 清都 和文



日頃から、チューリップを始めとして花と緑のPR活動にご支援、ご協力を賜わり誠に有難うございます。

当富山県花卉球根農業協同組合では、

県内各地で開催されているチューリップフェア等春のイベントへの積極的な協力と参加により、県民の皆様の花への関心を高め、理解を深めるための努力を行っています。今後とも宜しくお願いたします。

さて、人と緑と花の関係とその役割について少し述べたいと思います。

まず人と緑の関係ですが、これは、人に流れる血液の色素ヘモグロビンと植物の葉の緑の色素となるクロロフィルとは、Feで構成されるヘモグロビン、Mgで構成されるクロロフィルと入れ替わっただけなのです。言わば、人の血液の色素は、植物の葉の緑の色素クロロフィルから来ているのです。つまり人は、自分で色を作ることが出来なく、植物の色に頼って生きているのです。そのようなところから人は植物で作られる、葉の色、花の色に対して本能的に憧れがあるのかもしれない。言わば、植物は、人間のふるさとであり掛替えのないものなのです。

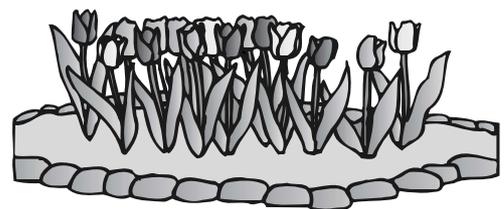
次に葉と花の関係ですが、花は花葉とも言い葉が変化したものであり、葉は栄養器官であり、花は生殖器官である。

花はアントシアン（赤～紫）、キサントフィル及びカルチノイド（黄）、フラボノイド（白）など色素によって、昆虫を引き寄せ受粉を促進させる。その色の成分は糖と有機酸から成り立ち、甘酸っぱい香りを発する。言わば、花は、動物や人間を引きつける力があるのです。

最近よく「地産地消」とか「身土不二」とか言いますが、光と水と土、その地（土地）独自で育った、花と緑（植物）は、その地で育った人間にとって掛替えのないものであり、それを目で見たり、口で食べることによって、一番、健康で生きられる証しなのです。日本で育った花と緑は、日本人に合った緑であり花なのです。今、目の前に見える自分達の育った地域の美しい花と緑を大切にしたいものです。

雪解け水と五月晴れの続く富山の太陽と北アルプスと五箇山の恵みが蓄積された豊かな大地で育った掛替えのないチューリップを地元の人とは言うまでもなく、全国の人に楽しんでもらえればと思っています。

今後とも地元で育ったチューリップを花壇にご愛用いただくとともに、富山からの贈り物としてもご活用いただきますよう宜しくお願いします。



砺波市における緑花推進について

チューリップ四季彩館
緑花係長 平田 和己

砺波市の緑花行政

砺波市は緑豊かな自然に恵まれ、庄川の清流を始め色とりどりのチューリップ畑や屋敷林に囲まれた住居が点在する固有の景観を有しています。

これまでの主な緑花施策として、昭和54年には「緑のマスタープラン」を策定し公園や緑道などの整備を進め、昭和62年の「砺波市グリーンプラン」では、市民総参加による緑花推進市民会議の設置を、またフラワー都市交流や市民一人一鉢づくり、市の花木の選定等、ソフト面の充実を図る事業を行ってきました。さらに、平成3年度の「グリーンプランとなみ」では各種団体等による積極的な緑花活動の展開や公共施設や企業等における緑地面積の確保など花と緑のまちづくりを着実に進めてまいりました。その他平成13年度に策定した「新グリーンプランとなみ」では、市民の安全で安心な環境への関心の高まりから自然保護と環境保全が求められており、花や緑が持つ機能に大きな期待が寄せられ、自然との共生をめざし市民が主役の花と緑のまちづくりを進めているところです。

私達の夢花壇

平成8年の第13回全国都市緑化フェア「彩りとやま緑化祭'96」の開催を契機として、そのテーマ会場である砺波チューリップ公園では、市民参加型で花のある美しい郷土づくりを推進するため、個人や団体による「私達の夢花壇」を実施し花々の植込みから管理等を行い花のある生活の浸透を図っています。

●春花壇の部 / 秋にチューリップやパンジー等を主体とした植込みをおこない、4月のチューリップフェア開催時に審査を実施しています。

●夏花壇の部 / 春に夏花を植込み、8月のカンナフェスティバル期間中に審査を実施しています。

花と緑の銀行事業

平成16年11月の旧庄川町と旧砺波市の合併により、新砺波市においても引き続き各地区に緑化推進協議会を組織し、地区民独自の取組みによる花壇づくり（花づくりクオリティアップ推進事業）を推進して、砺波市全体の花と緑に対する啓蒙と普及を図っていきたいと思っています。



春花壇の審査風景（プランターの部）



夏花壇の植え込み風景

花壇づくりはオンリー・ワンで！

元砺波農業改良普及所長
笹井 孫行

コンクールなどの機会に県内各地で作られている花壇をよく見る。規模の大型化、手の込んだ花の飾り方、そして花の種類が多様化などここ10年位前と比べると急速な変化を遂げ、それとともに花壇づくりの技術も非常に高くなったように思います。

反面、ちょっとした空き地を利用して、手間暇をかけずに手軽に作った花壇がめっきり減ったように感じます。過度期の現象であるにしても、多くの経費と労力をかけて作る花壇づくりの傾向は、誰にでも出来る花づくりでないという点でちょっと気がかりです。

花壇づくりは、規模や型、飾り方、そして植える植物の種類など、何かを基準にそのまま見習うのではなく、いま自分たちでやれる花づくりはどんなものか、それを見極めて、自分たちに出来る範囲で計画した無理のないオリジナルな花づくりが、長続きする地域の花づくりにつながっていることを多くの事例から学ぶことが出来ます。

1 どんな花を選ぶか

どんなに見馴れて、そしてありふれた花であってもいい、育てやすく丈夫な花を選ぶことが大切です。植えた花が確実に花を咲かせ、しかも長い間咲き続けてくれることが花壇として欠かせない条件だからです。

2 土づくりの出来ていない花壇は失敗する。

草花類の健全な生育に欠かせないのが、有機質肥料（完熟した家畜の糞尿堆肥など）を毎年施し、有機質に富んだ土づくりをしっかりとやっておくことです。見事な花を咲かせている花壇は例外なく土づくりがしっかり出来ていることから、土づくりが如何に大事かということをお話しています。

3 夏場の水のやり方は、花の寿命を左右する。

生育の成否にかかわる大切な管理でありながら、意外と無頓着になっているのが夏場の灌水だと思います。

灌水は、土の種類によって、草花の生育量によって、天候によって、花の種類によって、

総合的に判断して行う作業で、単に「水をかける」という作業ではありません。特に高温時は、朝か夕方の灌水を原則として日中は絶対灌水しないこと、灌水するときは時間をかけてたっぷりやり、灌水の回数を減らす（乾いたら水をやる）のが夏場の水のやり方です。

4 花を長く楽しむために

1) 花がら摘み

咲き終わった花や枯れ葉は病気の原因となり、また、種が出来ると栄養分の消費となるのでこまめに花がら摘みを行います。

2) 切り戻し

株を若返らせ、分枝を促し、株張りをよくして草勢を回復させ、花の数を増やすとともに草丈の調節にもなる大切な作業です。花が一段落したとき、傷んだ枝を切り揃えるとき、株の風通しを良くするときなど、まめに、時にはおもいきって行えば、秋の終わりまで花を楽しめます。

5 こんな花づくりでいい(花づくりはオレ流で)

花づくりは、みんなが楽しみながらやるもので、他から押しつけられるものでもなく、意に反したことを不本意にやるものでもない。

花づくりのすすめ方を私なりに要約してみました。

1) 与えられた条件、環境で自分達にあった花づくりを進める。

2) 組織の年齢、花壇の環境、資金の調達度、地域内での協力体制など、それぞれ異なる条件で進める花づくりであってみれば、千差万別の花づくりがあっても当然であり、それが本来の花づくりだと思います。

3) 手間や経費を出来るだけかけず、無理をせず、自分たちの出来る範囲で楽しみながら花づくりを進める。

4) 急がず、休まず、一步一步進む、そして継続する。続けることこそ、花づくりの普及につながり、他への限らない勇気ともなります。

とやまの花壇苗・鉢花

プリムラ・ポリアンサ

富山県農林水産部技術推進課普及指導班
主任普及指導員 佐藤 克美

1. プリムラ・ポリアンサの特徴

プリムラ（サクラソウ）の仲間は、主に北半球の山地に自生しています。世界では500種以上があり、我が国にもサクラソウやクリンソウなど約20種類が自生しています。

自生するプリムラの仲間を利用して品種改良が進み、多数の系統や品種が育成されています。プリムラ・ポリアンサは、プリムラ・ベリス、プリムラ・エラチオール、プリムラ・ブルガリスなどの交配によって育成されたと考えられている園芸種で、耐寒性があり、花色も豊富で、早春を彩る鉢花として人気があります。プリムラ類は、県内で106千鉢生産されています。

2. 生産の現場では・・・

プリムラ・ポリアンサの鉢花生産は、一般的に春から初夏にかけて種まきされ、夏の育苗期間を経て、秋に定植、初冬から春に開花して出荷されます。このため、栽培上は1年草として扱われます。

冷涼な気候を好む、低温に強い鉢花ですが、暑さは苦手です。本県では、株をつくる育苗期間の夏が高温、多湿条件であるため、夏越し管理には高い技術が必要となります。遮光資材を駆使して風通しを良くし、温度が20以下になるように管理されます。また、かん水も涼しい時間に行います。施肥は葉色を見ながら液肥を施用します。病虫害防除等にも手間と労力がかかります。

10～11月に早く出荷する場合には、高冷地育苗や夜冷育苗された苗を利用して栽培されています。プリムラ・ポリアンサの生産では苗半作といわれ、良い苗の確保が大切です。

3. プリムラ・ポリアンサの選び方

プリムラ・ポリアンサは、花が大きく径は6～8cmあります。花色は鮮明な桃、赤、紫、青、黄、白などに覆輪や絞りなどがあり豊富です。

鉢を購入する際には、花色とともに、次のことに留意して選びましょう。

- 葉は緑色が濃くの枚数が多いもの
- 鉢と株の大きさのバランスがよいもの

株全体が締まったかんじのもの

蕾が多いもの

花にシミがなく、株もとにカビが生えていないもの

4. 花を長く楽しむための管理

置き場所

プリムラ・ポリアンサを手に入れたら、窓辺の日当たりの良いところなど、できるだけ日当たりのよい場所に置きましょう。日当たりの悪い場所で楽しむ場合は、週に2～3回、日光浴させます。

寒さには強く、鉢土が凍らなければ枯れることはありません。逆に、暖房された室内では温度が高すぎたり、乾きすぎて弱ることがあるので注意が必要です。

水管理

水やりは、土の表面が乾いたらたっぷりやりましょう。土が乾きすぎると、花や葉がぐったりと萎れてしまうので注意してください。

株の手入れ

咲き終わった花や黄化した葉は病気の発生源となるため、こまめに取り除きましょう。

次から次に花を咲かせるため、葉色が淡くなり、花が小さくなってきたら薄い液肥で追肥します。肥料をやりすぎても株が弱るので注意してください。



いつも新鮮な感

富山県花総合センター



爛漫の春



モデル花壇の夏



正面とカラーウォール
(デザインは富山県と世界遺産)



モデル花壇の冬



ふれあい広場の秋

動に出会える！

ー（エレガガーデン）



年3回開催される花まつり
（早春の花まつり2005）



オープン講座
（ポットマンと寄せ植え）



花の栽培実証試験
（ペゴニア）



実証試験の成績紹介



スイセンコレクションの展示
（177品種）



年間を通じて楽しめる展示温室

花いっぱいの街道作りを目指して

花と緑の銀行富山支店野積地方銀行 頭取
宮ノ下村づくり会 会長 本田 秀雄

当地区の状況

私達の地区は富山市八尾町の南部に位置し、野積川の清流に沿った細長い集落が点在する山村です。平成12年に「富山自然百選」に選ばれた秀峯祖父岳や白木連山が遠望できる山と川と花の調和がとれた花街道作りには最高の場所と言えます。また、近くには「棚田百選」に選ばれた「みのり営農」があり、棚田の学校や野積の里清流フェスティバルなど各種行事に活気に満ちています。



花作りを始めた動機

私達が村づくり会を設立したのは、米作りや各種苗作りの共同作業の楽しさと人との融合の大切さを痛感しておりました昭和50年初頭です。その頃に花と緑の銀行が設立され、私達の方へも花街道を作る相談がきました。そのような中で、地区の美化活動と環境整備の一環として地区住民総出で「カンナ」の球根の植付けを行いました。

何分にも素人集団でしたので病虫害対策や溢水など疑心暗鬼の状態を始めましたが、初夏から新しい芽が出、青い大きな葉が育ち、道行く人々の物珍しさと驚嘆によって、各集落へと話題が広がり、花街道作りができてきました。

地域への波及効果

その後、私も花と緑の銀行のグリーンキーパーや頭取に登録され花作りの輪が広がり、苗作りや指導の依頼など地区でも次々と花作りが盛んになり、地区公民館や青少年育成会議の方々

と協力して地区住民総参加の花街道作りが行われるようになりました。

また、従来の絢爛豪華な原色中心の街道作りから落ち着いた雰囲気、癒しの効果がある街道作りに取り組んでいますので、宿根草や多年草を中心に緑の多い街道にしています。

私自身も村づくり会の枠を越えて地域全体の街道作りのために精を出しています。

今までの活動を振り返って

過疎化が進む村で花いっぱいの地区を目指して努力を重ねてまいりました。花作りを通して感じたことは人と人の繋がり、共同作業の素晴らしさです。その中で花作りを媒介にし、誰もが住みやすい魅力ある街作りを進めたいと思います。そのために以下のことを望みます。

道路を花で飾り、通行者の心を和ませる環境を作りたい。

花作りの輪を広げ、花を媒介として交流を深め、緑化意識を高めたい。

街角の花壇や家庭、地区全体が花で溢れ、子供達の心の教育に貢献したい。

花作りを通じて自然への学びと異世代間の相互交流を深めたい。

そして、数多くの人々が花を愛し、後生まで美しい自然を残していけるように私達も更なる活動を行っていききたいと思います。



街路樹や庭木を守る - アメリカシロヒトリの被害と防除 -

富山県林業技術センター林業試験場
中山間地域資源課長 西村 正史

この季節、庭木や街路樹として植栽されているサクラなどの緑化木の葉が急に少なくなり、最後には丸裸になってしまって、大騒ぎすることがあります。これはアメリカシロヒトリの食害によるものです。この害虫は、戦後アメリカからの物資の輸送に伴って日本に侵入しました。戦後60年になりますが、なぜかこの害虫は山間部には侵入することはできず、市街地特有の害虫として多くの市民に不愉快な思いをさせています。今回はこの害虫について紹介します。

いつ頃発生するか

富山県では蛹で越冬し、5月下旬から6月上旬にかけて1回目の成虫が発生し、交尾後すぐに卵をまとめて葉に産み付けます（写真の左上）。ふ化した幼虫は巣の中で過ごしますが、大きくなると離ればなれになって生活します。この時期に葉を食害しますが、その期間は6月上旬から7月中旬頃までです。十分葉を食害した幼虫は樹木の樹皮の裂け目あるいは地上に降りて石の隙間や落葉層などでマコをつくり、その中で蛹化します。2回目の成虫は7月下旬から8月上旬にかけて発生し、産卵します。幼虫は8月中旬から9月下旬にかけて再び葉を食害します。9月下旬から蛹へと変化して、蛹の状態越冬します。

どのような樹木を加害するか

幼虫は主に落葉広葉樹の葉を食害します。寄主範囲は非常に広く、北米、ヨーロッパ、韓国、日本で報告された植樹は、針葉樹や裸子植物を含めると、320属30種以上であると云われております。しかし、この虫が好きな属は、ドロノキ属、ヤナギ属、クルミ属、クワ属、フウ属、スズカケノキ属、サクラ属、ミズキ属、カキ属などです。

どのようにして防除をするか

出来るだけ、農薬を使わないで防除することを心がけましょう。そのためには、この虫の生態を良く理解することが大切です。ふ化したばかりの幼虫は写真（右上）のように塊の状態生活しており、その部分とその周辺が食害されるので、部分的に枯れた状態になり、よく目立ちます。このような状態の枝を高枝バサミで切り取って足で踏みつぶしましょう。確実です。

この時期を逃すと幼虫の食欲は旺盛になり、農薬の助けを借りる必要があります。ホームセンターに行ってアメリカシロヒトリ用の薬剤を購入し、使用してください。なお、この虫には毒はありませんから、安心してください。



（写真）アメリカシロヒトリ（左上が産卵中の雌、右上がふ化直後の幼虫、左上が大きくなった幼虫、右下が被害木）

この人あり

地域に密着した活動を！

滑川支店北加積地区グリーンキーパー 浦田 博さん



滑川市花と緑の活動推進協議会が発足して以来8年間、北加積地区グリーンキーパーとして浦田博さんには、花苗生産者である40年間の経験と実績を活かし、本会の技術指導部長として日々多忙な中、緑

化活動の推進にご尽力をいただいています。

北加積地区には、滑川市の中心を走る主要地方道菟輪滑川インター線と、魚津市と上市町を結ぶ、主要地方道富山・立山・魚津線の交差する地点に30坪ほどの花壇があります。以前は地区の老人会などの人たちが、率先して花壇の管理を行っていましたが、ここ何年かは高齢化に伴い管理が滞り、見るも無残な状態になっていました。

そんな状態を見るに見かねて、今年は浦田さんが地区頭取やグリーンキーパーに呼びかけ、

草を刈り、土を耕してマリーゴールドやアゲラタムなど、色とりどりの花を植え昔の素晴らしい花壇が蘇り、ドライバーや地域の方々と和ませています。

また、浦田さんは地域の緑化について、「呼びかけるだけでは人は集まらない、もっと地域に密着した活動から活発にしていきたい」と意欲に満ちておられ、地元杉本町内会では、年に3回盆栽や園芸など、自慢の作品を持ち寄って、出展される作品をお互いに批評し、意見を交換して、地域の人たちが花や緑に興味をもってもらえるよう品評会を行っています。

地域緑化を推進するためには、その地域で積極的に取り組む人々の活躍が不可欠だと日々実感します。季節には季節の花が溢れ、自然と人がふれあって、ともに楽しく生きることが出来る地域づくりに浦田さんは今日も汗を流しておられます。

(滑川市都市開発課 亀澤 千春記)

草花の害虫とその防除法

5. カイガラムシ類

富山県立大学非常勤講師
成瀬 博行



カイガラムシ類は、草花を加害することはほとんどありませんが、庭木などに発生しているのを見ることは珍しくありません。近年立体的な自然風花壇が推奨され、花壇の中に花木などが植えられること

が多くなってきましたので、今回はカイガラムシ類について述べることにします。

カイガラムシ類は、アブラムシやウンカなどと同じ半翅目という昆虫のグループに属しています。頭、胸、腹の部分に分かれず、円形、楕円形、くさび形など、普通の昆虫とは全く異なる形をしており、樹脂状の介殻や、粉状または綿状の口吻物で覆われています(写真)。種類は非常に多く、我が国で数百種以上が記録されています。

卵から孵った幼虫は、発達した足を持ち、定着に適した場所を求めて歩き回りますが、いったん定着した後はその場所からほとんど動くことなく、寄主植物にくちばしを差し込んで吸汁し、発育します。雌の成虫は、羽を持たず固着したままですが、雄は成虫になると普通の昆虫

のように翅を持ち、雌のもとを訪れて交尾します。

カイガラムシ類は、多数の個体が汁液を吸収することにより、寄主植物が衰弱し、ひどい場合は枯れることもあります。また、介殻状の虫体や綿状の卵のう等が密集して付着することや、アブラムシやウンカと同じく排泄物にスズ病が発生することにより不快感を与え、美観を著しく損ねます。

寄主植物は主に樹木で、ほとんどの庭木や花木に発生するので、注意が必要です。

カイガラムシ類は、防除が難しいとてもやっかいな害虫です。日頃から枝葉の混み合った部分や枝が分岐する部分など、見えにくい場所も含めて観察し、発見したらただちにつぶすか剥ぎ落とすなど、早めに対処してください。

殺虫剤で防除する方法は、虫体が口吻物で覆われ、薬剤が届きにくいいため、通常の散布では効果が期待できません。冬期に機械油乳剤や石灰硫黄合剤を散布し、越冬中の虫を退治するか、晩春～初夏にかけて孵化幼虫が発生する時期に、有機リン剤などを散布する方法があります。散布にあたっては、使用基準を守って、有効な薬剤を選択し、枝の裏側などにもまんべんなくかかるように注意が必要です。

お知らせ

平成17年度各種コンクール実施計画

(財)花と緑の銀行 TEL076-466-2425

コンクール名	応募締切日	審査予定日
花の道コンクール	7月20日(水)	7月27日(水)~7月29日(金)
学校花壇コンクール	7月27日(水)	8月3日(水)~8月5日(金)
幼稚園・保育所花壇コンクール	8月3日(水)	8月10日(水)~8月11日(木)
一般花壇コンクール	8月10日(水)	8月24日(水)~8月26日(金)
個人花壇コンクール	7月20日(水)	7月25日(月)〔一次審査〕8月12日(金)〔二次審査〕
花と緑のポスター原画コンクール	9月7日(水)	9月中旬
花と緑の標語コンクール	9月7日(水)	9月中旬
花時計花壇デザインコンクール	9月9日(金)	9月中旬

中央植物園 7月~9月の主な行事

申込先 富山県中央植物園 TEL076-466-4187

イベント名	内容	開催日	時間	場所	備考
親子デジカメ教室	花を写そう	7月30日(土)	10:00~15:30	植物園、富山県ITセンター	要申込(ITセンター)
夏休み植物教室(1)	植物採集と標本の作り方	7月31日(日)	10:00~16:00	植物園、頼成の森	要申込
竹とんぼ教室	竹とんぼの講習会	8月7日(日)	13:00~16:00	植物園ドリアスホール	要申込
夜間開園	夜の温室植物	8/13(土)~14(日)	19:00~21:30	植物園展示温室	入園料300円
夏休み植物教室(2)	植物の名前調べ	8月28日(日)	10:00~16:00	植物園実習室	要申込
第13回TOYAMA植物フォーラム「竹」	竹とはどんな植物か? 世界の竹文化 等	9月11日(日)	13:00~16:00	植物園研修室	
講演会	きのこ中毒を防ぐために	9月25日(日)	13:00~15:00	植物園ドリアスホール	入園料が必要

「頼成の森」、「森林科学館」のイベント開催案内

申込先 頼成の森森林科学館 TEL0763-37-1540

イベント名	募集人数	開催日	時間	備考
野鳥と昆虫の観察会	20名	7月24日(日)	9:30~12:00	5歳~中学生まで、無料
木工手づくり教室	120名	8月6、7日(土、日)	9:30~15:00	5歳以上、実費徴収
キノコ狩りと観察会	40名	10月16日(日)	9:30~13:00	5歳以上、参加費200円
2005ドングリ集め	300名	10月22日(土)	10:00~15:00	5歳以上、無料
森の恵みでクラフト制作	24名	11月13日(日)	9:30~15:00	小学生以上、実費徴収
簡単!飾り炭づくり教室	20名	11月27日(日)	9:30~14:00	小学生以上、参加費100円
冬も楽しい森の中探検	30名	2月12日(日)	9:30~13:00	小学生以上、参加費200円

表紙写真 アシツキ(藍藻植物ノストック属)撮影:幡谷広司

数珠のように連なった細胞列が多数耳たぶぐらいの硬さの寒天質に包まれた群塊になり、水中や湿地上に生育する。この属の仲間をカワタケ、所によりカモガワノリ(京都府)、アシツキ(富山県)と呼んで食用にされる。



片貝川上流 / 魚津市南又谷

花と緑の銀行だより 156号

発行日 平成17年7月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園 頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjounomori/>

